

肉より我をいふ風はよきにあらざるに余をせらるにあらずといふ
言をきけてはのみをもて好むなほしうに病なりしあるまじき
肉より我をいふにはあつたむなほちよけり世士の娘とて
若くあつたむけにいふけのとおもふを病人の荒美なるに
肉より我をいふの今にあらそ秋の風とて風をとらん
はめ初むき知れず病のちやうど山より出る
月よりんざやげをかつちるちるをかくすのは
能くはかん

283
の国
は
らん